



DAIDO CAMPUS

No.91 2017.07



第52回大学祭(宴祭)

“輝”～The sky is the limit～

5月27日(土)、28日(日)の2日間、大学祭が開催されました。今年のテーマは“輝”～The sky is the limit～。ご来場者のみなさんと共に輝くときを共有したいという思いから、大学祭実行委員会を中心に企画を練り上げ、準備をしてきました。当日は、学内だけでなく、学外からも多くの団体が参加し、後夜祭では「The BONEZ」のステージが行われ、最後まで盛り上がる大学祭となりました。

写真提供:アルバム委員会





ボウリング大会

6月3日(土)、クラブ委員会主催のクラブ対抗ボウリング大会が行われました。投球練習時からボールが投げられるごとに歓声上がり、大変盛り上がり、各クラブが絆を深めることができました。

表彰式では、団体・個人別で上位とランダムな順位に景品が用意されており、ハイスコアを取れなかった人も最後まで楽しんでいました。

団体の部

順位	団体名	チーム名
1位	サッカー部	サッカー部A
2位	大学祭実行委員会	チーム現役
3位	アルバム委員会	ユートピアAgo

個人の部

順位	団体名	氏名
1位	テーブルゲーム研究部	渡邊 将尋
2位	サッカー部	田村 青葉
3位	大学祭実行委員会	菱田 修介



写真提供:アルバム委員会

高木雄生さん(工学部 機械工学科)

日本機械学会東海学生会 卒業研究を発表しました



機械工学科の4年(当時)高木雄生さんが、3月13日(月)に静岡大学浜松キャンパス(浜松市)で開催された日本機械学会東海学生会による「東海学生会第48回学生員卒業研究発表講演会」に参加しました。

同講演会は、発表だけでなく、各セッションの司会役も学生が主体となって行う会で、高木さんは、材料力学IIの座長を務めたほか、ベストプレゼンテーションアワードセッションに参加し、「熱による材料特性の変化を考慮した弾性流体潤滑の計算手法の開発」の発表を行いました。大学院進学を前に、貴重な経験となりました。

大須賀健悟さん(大学院 情報学研究科)

情報処理学会全国大会で 学生奨励賞を受賞



3月16日(木)～18日(土)に、名古屋大学東山キャンパスで行われた、情報処理学会第79回全国大会において、本学大学院情報学研究科大須賀健悟さんが学生奨励賞に選ばれました。

全国大会は年1回開催される情報処理学会最大のイベントで、最新の学術・技術動向や情報に関する新しい研究成果や

アイデア発表を通し意見交換・交流が行われます。大須賀さんは一般講演発表で、論文「幾何学的性質に基づく無線センサ・ネットワークにおけるシンク・ノードの配置アルゴリズム」を発表し、みごと学生奨励賞に選定されました。

大須賀さんは受賞に際し、「賞をもらえるとは思ってなくて正直びっくりしました。セッションの座長からはこのテーマについて、『今後もやるのが多くて大変だが、それだけ将来性のあるテーマだということ。頑張ってください。』とコメントをもらいました。修士論文でもこの研究テーマを深めていこうと考えているため、試行錯誤しながら頑張っていきたいです。」と話していました。

富永菜月さん、服部裕輝さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

学生がラジオ番組のコーナーに出演し、オンエアされました

メディアデザイン専攻の小島一宏准教授がパーソナリティを務めるラジオ番組「小島一宏 一週間のごぶサタデー」の5月13日(土)放送分で、メディアデザイン専攻の富永菜月さんと服部裕輝さんが出演し、オンエアされました。番組内のコーナー「大同大学キャンパスリポート」にて、神保学長のインタビューの収録を放送しました。

「ごぶサタデー」での学生制作スタッフの活動は、昨年度スタート時よりも参加学生が増え、現在4チーム29名の学生たちにより制作・放送されています。取材の仕方やインタビューにも慣れてきて生放送の出演も元気よく出来るようになってきました。引き続き、今後の活躍が楽しみです。



オンエアの様子(左手前:富永菜月さん、右手前:服部裕輝さん、右奥:小島一宏准教授)

男子ハンドボール部

南区フリモで巻頭特集されました

南区エリアにて総発行部数57,850部を誇るフリーペーパー「南区フリモ」6月号に男子ハンドボール部が巻頭特集として掲載されました。

「この南区をいつかハンドボールのまちとして全国に知れ渡るようにしたい」と、地域からも愛されるチーム作りを目指す男子ハンドボール部の取り組みが大きく取り上げられています。



原田竜汰さん、三重樹弥さん(男子ハンドボール部)、原田一沙さん(男子ハンドボール部 卒業生)

東京五輪の強化指定選手に内定しました!

本学男子ハンドボール部の原田竜汰さん(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)と三重樹弥さん(同)、原田一沙さん(同 卒業生)が、「2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化本部」(事務局・愛知県教育委員会)の強化指定選手に内定しました。

指定枠は、トップ日本代表候補で、2020年に開催される東京オリンピックの代表を目指します。

6月11日(日)には、本部から認証式が行われ、また、強化選手らによるトークセッションが行われました。

卒業生の活躍

原田一沙さん(男子ハンドボール部 卒業生)

中日新聞

「はばたけ郷土のアスリートたち」に掲載されました

5月4日(木)付の中日新聞で、卒業生の原田一沙さん(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)が、連載「はばたけ郷土のアスリートたち」に掲載されました。

2016年11月(当時4年)に、男子ハンドボール部のキャプテンとして、チームを歴代最高の全日本インカレベスト4に導いたのはまだ記憶に新しく、U-24とU-21日本代表選手としても大いに活躍していました。卒業後は社会人ハンドボールチームの強豪である大同特殊鋼に入社し、2020年東京オリンピック出場を目指して奮闘中です。今後も大同大学の卒業生として原田さんの活躍に期待しています。

5月4日(木)付 中日新聞



強化クラブ 春季リーグ結果レポート



男子ハンドボール部 準優勝!

創部史上初の3期連続優勝を狙った男子ハンドボール部。最終成績で大同大学と名城大学はともに8勝1敗で並ぶも名城大学との直接対決に僅か1点差で敗れたため惜しくも準優勝。1点の重みを改めて感じる結果となりました。最終戦となった中部大学との試合直前、目の前で名城大学が勝利したため最終戦の結果にかかわらず優勝の可能性はなくなっていました。しかし、それでも選手たちは大同のハンドボールを貫きチーム一丸となって次につながる勝利をもぎ取りました!次は西日本インカレで創部史上初めての優勝を狙います。

女子ハンドボール部 準優勝!

6戦全勝で最終戦を迎えた女子ハンドボール部。最終戦の相手は同じく全勝の中京大学となりました。勝った方が優勝の一番。前半は中京大学が優位に試合を進め2点ビハインドで折り返します。後半に入って流れを掴んだ大同大学は試合終盤には3点差をつけ勝利を手繰り寄せたかに見えましたが、ここから中京大学も驚異の粘りを見せ再び逆転を許し、惜しくも準優勝となりました。しかし、選手たちは最後まで手に汗握る素晴らしい熱戦を繰り広げてくれました。西日本インカレでの活躍も大いに期待しています。



バレーボール部 準優勝!

上位チーム同士の対戦は多くの試合でフルセットになるなど実力が拮抗しているリーグにおいて、創部史上最高位の準優勝を飾ったバレーボール部。優勝した中京大学との対戦でもフルセットにもつれ込む大接戦を演じ、秋にはリーグ優勝の期待も大いに感じられる春のリーグ戦となりました。勢いに乗って次は西日本インカレでチーム歴代最高位を狙います。また、ベストスコアラー賞にはキャプテン 永井選手が、ベストリベロ賞には2年 備選手が輝きました。

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 展示会「NEW IDEAS」が リスボン大学で開催されました

昨年5月に本学展示室で開催された展示会「NEW IDEAS」が、今年4月4日(火)～5月26日(金)の日程でポルトガルのリスボン大学で開催されました。

「NEW IDEAS」は、アメリカ合衆国にあるフィラデルフィア芸術大学にメダル芸術を紹介する目的で1998年から始まった展覧会ですが、2001年にリスボン大学がパートナーとなり、以降毎年第三大学を招待して行われています。昨年の第三大学として本学が選ばれ、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の有志学生が作品を制作しました。昨年5月の本学での展示、その後昨年6月～8月に行われたニューヨークのアートギャラリー「MEDIALIA GALLERY」での展示に引き続き、このたびのリスボン大学での展示会で一連のリレー展示が終了しました。



情報学部 情報デザイン学科 ポートフォリオ展を開催しました



4月10日(月)～14日(金)まで、本学展示室にて「ポートフォリオ展」を開催しました。

「ポートフォリオ」とは作品集のことで、今回の展示は情報学部情報デザイン学科の有志の学生が共同で実施しました。主なターゲットを新入生に定め、創作意識を高めてもらうことや今後どのようなものを制作していくかを紹介することを目的としました。プロダクトデザイン専攻

の石野要さんは岐阜県白川町の特産品である東濃ひのきを利用した「椅子」を出展し、見学者のアンケート投票で大きな反響を得ました。

今回のポートフォリオ展をリーダーとして開催したメディアデザイン専攻の林祐太郎さんは、「多くの方に見てもらう機会の少ない私たちの作品が、こうして見て評価して頂けることは光栄なことですし、自身の勉強にもなります。次回はターゲットを全学的に広げて10月にも開催を予定しているので、より多くの人に見に来て頂ければと思います。」と、次回の開催の意気込みを話していました。



築城佑果さん、伊藤由華さん(大学院 工学研究科 前田研究室) 日本鑄造工学会主催 第169回全国講演大会で発表しました

5月27日(土)～28日(日)に東京で開催された、公益社団法人 日本鑄造工学会主催 第169回全国講演大会にて、大学院 工学研究科 前田研究室 2年 築城佑果さんが「水モデル装置を用いたダイカスト湯流れの基礎調査」、同じく伊藤由華さんが「100℃を超える高温鑄型砂の混練における散水直後の冷却挙動」と題して研究発表を行いました。また、前田安郭教授も富士通株との共同研究「酸化膜モデルを用いたアルミニウム注湯の粒子法シミュレーション」を発表しました。



上岡和弘教授、平田優哉さん、坂雄太さん、廣瀬亜純さん
(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

『南区いきいきMAP』を 作成しました

名古屋市が各区に設置した高齢者支援組織のひとつ「南区地域包括ケア推進会議高齢者孤立防止対策部会(つながろうねっと)」からの依頼が、上岡教授にあつたことから、お年寄りが積極的に外出し、地域との連携を強めることで社会的な孤立を解消することを目的とした「南区いきいきMAP」を上岡教授とメディアデザイン専攻の学生が作成しました。会話のきっかけとなる「情緒的情報」と外出の際のケア施設など「機能的情報」に分け、自宅で使用しやすいように紙質や仕様にもこだわっています。



「南区いきいきMAP」は平成28年4月～平成29年5月の約1年1か月を掛けて制作した力作です。上岡研究室4年の平田優哉さんはじめ、4年坂雄太さん、3年の廣瀬亜純さんの3名と上岡教授が「つながろうねっと」の方々と共に、区内七つの中学校の学区を実際に自転車で行き回りながら、地域の人たちに取材と、写真撮影を行いました。当初は、MAPを高齢者の外出用情報誌と位置付けていましたが、研究を進めるうちに「自分が知っていること、体験した



ことには関心が高まる」ことに注目して、高齢者の方が「今でも現役」で活躍する懐かしい場所を通して会話のきっかけを増やす工夫を施し、また訪問ヘルパーの訪問時の会話用ツールとして位置づけて作成しました。

MAPは、「なにコレ!?!」と不思議に思う光景や、昔懐かしいお店などをピックアップ。お年寄りが立ち寄りたくなるように、地図と共に写真を入れて紹介しています。例えば、昭和33年開業で、現在でも薪を使ってお風呂を沸かすこだわりの銭湯や、「現役の釜戸」が見られるカフェなど、魅力的な場所が多数取り上げられており、その地域に住む高齢者が、新たに南区や地域の魅力を発見し、積極的に外出したくなるつくりとなっています。

この「南区いきいきMAP」は、高齢者の方々をはじめ、南区の皆さんの外出や会話のきっかけとなることを期待して、地域の関係各所で配られています。



杉本幸雄研究室
(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

大学プロモーションビデオ 第4弾完成!

杉本研究室の学生が制作を進めていた、大学プロモーションビデオ第4弾が完成しました。3月に本学の様々な場所で撮影が行われました。今回は男女2人の物語になっています。プロモーションビデオは本学ホームページ内「一目でわかる大同大学 大学紹介ムービー」でご覧いただけます。

こちらのURLよりぜひご覧ください。

(7月中旬頃 公開予定)

<http://www.daido-it.ac.jp/gallery/>



情報学部 総合情報学科 経営情報専攻

海外インターンシップの報告会が 開催されました



5月8日(月) 本学にて、「海外事情2」として3月に実施された海外インターンシップの報告会が行われました。

今回の海外インターンシップは、(株)レオパレス21にご協力いただき、バンコク(タイ)、ハノイ(ベトナム)、ヤンゴン(ミャンマー)といった経済成長著しい都市で行われ、経営情報専攻から7名の学生が参加しました。

内容は(株)レオパレス21の海外支社において、実際に不動産事業を体験するというもの。言葉も文化も習慣も違う異国の国で働くという経験は、学生達の職業観を養うだけに留まらず、それぞれが自分を見つめ直す良いきっかけとなったようです。少し遅しくなって帰ってきた参加学生達は、後輩たちの前でも堂々とした報告を披露してくれました。

前田安郭教授(工学部 機械工学科)

「見えない鋳型内現象をシミュレートする鋳造CAE」の記事を日刊工業新聞に寄稿

5月18日(木)付の日刊工業新聞に、前田教授が「見えない鋳型内現象をシミュレートする鋳造CAE(Computer Aided Engineering、コンピューター支援工学)」と題して寄稿した記事が掲載されました。

前田教授の主な研究テーマは、鋳造プロセスのシミュレーションです。記事中で、近年のコンピューターの性能向上に伴い、CAEに

関しても「粒子法」や「離散要素法」など、様々な新しい手法が導入されていることを取り上げ、「鋳造CAE分野も大きく変わる可能性がある。良い鋳物づくりに貢献できる鋳造CAEであってほしい」と締めくくっています。



5月18日(木)付 日刊工業新聞

前田安郭教授(工学部 機械工学科)

富士通(株)との共同研究をプレス発表し、新聞2紙で掲載されました

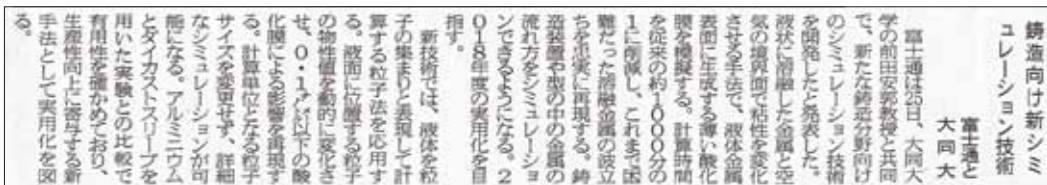
5月25日(木)、前田教授と富士通(株)との共同研究の成果を、富士通(株)のホームページにてプレス発表しました。

発表内容は「SPH粒子法による酸化膜挙動のシミュレーション」についてで、鋳造の生産性向上につながる技術として2018年度の実用化を目指して

います。このプレス発表を受けて、5月26日(金)付の日刊工業新聞と化学工業日報にて掲載されました。

富士通(株)でのプレス発表はこちら

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2017/05/25.html>



5月26日(金)付 化学工業日報



5月26日(金)付 日刊工業新聞

坪井涼准教授(工学部 機械工学科)

「トライボロジー会議2017春 東京」で座長を務めました

5月15日(月)～17日(水)にかけて東京・渋谷の国立オリンピック記念青少年総合センターで日本トライボロジー学会主催の「トライボロジー会議2017春」が行われ、坪井准教授が座長を務めました。坪井准教授が座長を務めたのは、5月15日(月)に行われたうちの「学術(流体潤滑1)」で、「オンライン論文賞受賞講演」、「ディンブルにおけるキャビテーションのその場観察と油の再流動に関する考察」、「ジャーナル軸受の油膜動特性における質量保存則の影響」の3題でした。春と秋に開かれるトライボロジー会議では、多くのトライボロジストが集まり、ホットな情報を入手する機会を提供しています。全国の大学、研究所、企業の現場からの研究成果が発表、討議されると共に、特別フォーラムも行われました。

宮本潤示講師(工学部 機械工学科)

学会誌および日本熱処理技術協会中部支部の記念誌の企画、編集を担当

学会誌「熱処理」6月号および日本熱処理技術協会中部支部設立20周年記念誌の企画、編集を宮本講師が担当しました。

(一社)日本熱処理技術協会学会誌「熱処理」の6月号では、中部支部編集号として、中部地区の特徴の一つである自動車を取り上げ、「自動車等における材料・熱処理・表面改質の進化」と題して技術解説掲載を行いました。また、各研究室の研究、開発等がさらに発展することを期待して、中部支部所属の研究室・公的試験機関の計15研究室の紹介をし、情報交流の場を提供しました。

日本熱処理技術協会中部支部設立20周年記念誌における座談会では、中部支部の立ち上げに尽力した方々から支部立ち上げの経緯を尋ね、またこれまでの支部活動を振り返りながら、今後の支部活動に期待することなどをフリートーク形式で話した内容がまとめられています。中部地区の熱処理産業の現状や、熱処理団体の取り組み報告、今後のものづくり産業の予想など幅広い内容について話がなされました。本学を含め、今後の中部地区の研究、ものづくり産業の発展につながることを期待されます。

(一社)日本熱処理技術協会のHP <http://www.jsht.or.jp/>

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

情報技術協会のセミナーで講師を務めました

5月25日(木)に、東京都品川区でセミナー「パワーデバイスの高耐熱接合、実装技術と信頼性評価」が開催され、山田教授が企業の技術者らに対して講演を行いました。第1講座「パワーデバイスの接合における信頼性評価」を担当しました。

SiCやGaNを用いたパワー半導体デバイスについて、200℃以上の高温動作が可能になります。それらを実現するためには、デバイス実装技術の中でも接合技術が重要です。接合技術は、Agナノ系、合金系など、様々な技術が研究されていますが、低コストを狙ったCuナノ系も候補の1つとされています。山田教授は講座で、Cuナノ粒子接合を中心に、パワーサイクル信頼性などについて説明しました。

佐藤達生特任教授(工学部 建築学科)

「日本建築学会賞」を受賞

佐藤特任教授が、学術の進歩に寄与する優れた業績を表彰する2017年「日本建築学会賞」を受賞しました。表彰の対象となったのは「ゴシック建築の線条化のプロセス解明」で、日本建築学会からは「従来説の誤りを修正し、ゴシック建築の構造的発達契機を解明するなどの成果を示している。」などと高い評価を受けました。

佐藤特任教授の専門は建築史で、西洋建築史などに関する論文や著書が多数あります。日本建築学会は、佐藤特任教授の成果について、「様式論的に組み立てられてきた従来の建築史研究に、視点、方法、成果の上で大きく貢献するもので、西欧の先行研究の成果に従った研究が主流を占めてきた我が国の西洋建築史家にとって、先行研究を批判的に捉えて解明された成果は、見過ごすことのできないものである。」として、「現在の我が国における西欧中世建築史研究の学術的水準の高さを示したものと評価される。」と表彰の理由を挙げています。

岩橋尊嗣特任教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

岩倉市生涯学習センター主催の公開講座で講師を担当しました

岩橋特任教授が、愛知県岩倉市の生涯学習センターで開催している「暮らしの講座」で「整えよう!住まいの香り一家の中の空気の流れを知ろう」と題して2回講演を行いました。

5月12日(金)に行われた講演では「知っておきたい主な『におい』の原因と対策」と題した講演を行いました。家の不快臭の原因は、大きく分けると3種類。それらが混ざり合って、嫌なにおいの原因になるとして、においが発生する場所と原因をきちんと把握し、それに合った対策の取り方を説明しました。また、6月2日(金)には、「かんたん!におい解決術&『香り』の使い方」と題した講演を行いました。梅雨に向かう時期、水まわりのにおい解決術を中心に、においを断った後に快適空間を作るための香りグッズの使い方や脱臭剤や消臭剤の使い方についても説明がなされました。

大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

天白生涯学習センター主催の公開講座で講師を担当しました

天白生涯学習センターで開催された「なごや環境大学共育講座」で、大東教授が公開講座を担当しました。

大東教授は、5月24日(水)開催の『〈なごや環境大学共育講座〉水環境から考える、天白川の自然～豊かな川の恵みを次世代に～』のうち、第一回「名古屋の水環境の今～河川の実態から見てくること～」を担当しました。

名古屋市には多くの河川が流れています。これらの河川の水環境を保全していくことは、生物を取り巻く環境の保全につながり、人にも生き物にもやさしいまちづくりを進めることにつながります。大東教授は「なごや水の環境復活推進協議会」の座長も務めており、名古屋の河川を巡る水環境の課題と対策を学び、よりよい水環境についての話がなされました。

大同大学奨励賞 授与式を行いました

5月24日(水)学長室にて、大同大学奨励賞の授与式が行われました。奨励賞は研究活動において、特に顕著な業績をおさめたものなど、本学の名誉を高める模範的な行為として認められたもので、学科または学生部が推薦するものが対象となります。

今回は、林秀行さん(工学部 総合機械工学科)に奨励賞が授与されました。林さんは、独学で研究を深めた結果「冠歯車減速機」を発明し、1月23日(月)にその特許を取得しました。

林さんは、本学入学後に興味を持った減速機(ギア)について独学で研究を深め、歯車による減速機構以外の方法を思案するうち

に、これまでと全く異なる発想に基く減速機構を考案しました。このアイデアを以って、平成27年度のパテントコンテストに応募したところ、見事入賞し、特許出願支援対象者となったことで弁理士による特許出願のサポートを受け、特許取得に至りました。

なお、林さんは、平成26年度のパテントコンテストでも入賞し、特許出願対象者として選ばれています。その際は日本有数の大企業が同様のアイデアをわずかながら先に出願していたため、特許の取得には至りませんでした。しかし、この大企業と伍する発明をした経験に自信を深め、特許取得という成果につながりました。



オリエンテーション合宿を行いました

4月6日(木)～7日(金)と4月7日(金)～8日(土)に、静岡県浜松市で工学部 機械工学科、総合機械工学科、建築学科、情報学部 情報デザイン学科、総合情報学科 経営情報専攻に入学した学生を対象に、新入生オリエンテーション合宿を行いました。このオリエンテーション合宿は、1泊2日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として行われています。他己紹介やクイズ大会などを通して、初めは緊張していた学生たちも徐々にお互い打ち解けていき、楽しんでいる様子が見られました。

これから4年間、多くの人たちと交流し、大学生活をより充実したものにしていってください。



写真提供:アルバム委員会